

学校だより 第199号(4-4)

け や き

櫻



令和4年7月15日

横浜市立永田中学校
横浜市南区永田みなみ台7-1
TEL045-715-5511

「ゆとりを取り戻す貴重な機会に！」

校長 永山 泰士

まもなく夏休み。猛暑です。永田中ではプールから生徒たちの歓声と水しぶきの音が響き渡っています。花壇にはマリーゴールド、インパチェンス、ペチュニアが色鮮やかに咲いています。6月末に行われました第47回永田中学校体育祭では、保護者の皆さまに多数ご来場いただき、生徒たちの精一杯頑張る姿にご声援いただきました。ありがとうございました。

現在、3年生にとって、多くの部活動で最後の大会やコンクールが行われています。今年も精一杯頑張っている生徒や保護者の方々がわが校を応援している姿に感動しています。一試合でも一発表でも多く、今のチーム・仲間との時間(とき)が続くことを願っています。そして最後には部活動をやり遂げた達成感を感じてほしいと思います。

さて、私の夏の思い出と言えば…。40年以上前のベルリンの壁が存在する東西冷戦の時代に、私はリュックを背に新潟港から船でソビエト連邦に渡り、シベリア鉄道と空路でカスピ海近くのコーカサスに向かいました。なぜコーカサスなのかは、中学生の時に観た映画「十戒」にコーカサスという地名がでてきたからでした。また当時、ヨーロッパからシベリア鉄道を利用してナホトカから船で横浜へやってくる若者がいて、私もその逆ルートにチャレンジしてみたいと思ったからでした。さらにまた別の映画「ひまわり(ソフィア・ローレン主演)」という戦争を題材にした映画に登場したロシア女性の可憐さに魅かれたこともその理由でした。帰国にあたり、空路でハバロフスクに向かったのですが、空港の滑走路が洪水で着陸できず、その当時、西側諸国の人間である私が入ることが許されなかったウラジオストクに緊急着陸しました。私は空港内のVIPルームで機関銃をもった警備員に監視されました。私はお腹の調子が悪く(下痢で脱水状態)、急に部屋を飛び出し、空港内の一般客がいるエリアのトイレに向かってダッシュしました。警備員は私が逃亡したと思い、銃を持って追いかけてきて空港内は騒然となってしまいました。私はすぐに確保されました。その数時間後の深夜に私は護送車(高級車ボルガ)に乗せられ、シベリアの針葉樹林の中を移動させられました。車を降ろされたのは日本海沿いのナホトカ港の近くでした。おそらく私を日本行きの船に間に合うように送り届けてくれたのだと思います。若かりし頃、私は世界を観てみたいという好奇心でいっぱいでした。とにかくお金を貯め、時間を見つけては日本を出ることに一生懸命でした。

夏休みは「ゆとりを取り戻す貴重な機会」です。長い休みですから、生徒たちには自分の好奇心をふくらませることに時間をつかってほしいと思います。読書や映画、アウトドアなど、夏休みだからこそできることにチャレンジするのもよいかもしれません。ぜひ思い出に残る「ひと夏」を過ごしてほしいと思います。

日本の夏は、ほおずき、アサガオ、風鈴、蚊取線香、祭り、提灯、御神輿、盆踊り、花火、ラジオ体操。私たちの「ふるさと」であるこの地域には、本来ならば夏を満喫する行事がたくさんあります。コロナ禍が落ち着いた際には、生徒たちが地域の方々とかかわり、いろんなことを教えていただき、地元の夏を大いに楽しんでほしいと思います。

587名の生徒全員が夏を安全に過ごし、夏休み明けの8月29日(月)に、また元気に登校することを願っています。保護者の皆さま、地域の皆さま、夏休み中は永田中学校の生徒たちが地域のなかで過ごす時間が増えます。どうか見守りとお声かけを引き続きよろしく願いいたします。